

## 公園ボランティア実態調査2025に見る「地域住民による公園育て」の現状と多層的価値

The Current State and Multi-Layered Value of "Community-led Park Nurturing" as Seen in the 2025 Park Volunteer Survey

梶田 里佳 一般社団法人みんなの公園愛護会 代表

一般社団法人みんなの公園愛護会では、公園ボランティア活動に加え、自治会町内会など地縁団体への業務委託を含めた「地域住民による公園育て」の実態について、全国の人口5万人以上の基礎自治体を対象に調査しました。本稿では、地域住民の関わりとその価値や効果、抱える課題、全国の自治体担当者が注目する取り組みや各地の先進事例についてご紹介します。

### 1. 調査の概要

#### ■調査の趣旨

公園愛護会などに代表される市民の公園ボランティアに加え、地縁団体への業務委託も含めた「地域住民による公園育て」の実態と現状を多角的に把握することを目的とする。高齢化および担い手不足が課題とされる一方で、地域の公園と公園コミュニティの価値、都市の緑の質が見直される今、住民による地域の公園への積極的な関わりを支援・促進するための参考資料となることを目指す。

#### 〈今回のポイント〉

- ・地域住民の公園育ての実態について、「ボランティア」だけでなく「業務委託」も含めて調査
- ・価値と効果を「行政視点」と「公園利用者や住民視点」から質問

#### ■調査方法

期間：2025年8月～10月

方法：インターネットフォームおよびメール

対象：人口5万人以上の全国の基礎自治体（計515自治体）の公園の管理や運営に関わる担当者

#### ■回答数と回答率

回答数：340

回答率：64.8%（政令指定都市：100%、

中核市：77.4%、東京特別区：82.6%）

### 2. 調査結果より

#### (1) 地域住民による公園育ての有無

Q：公園等の維持管理に住民の関わりがありますか？

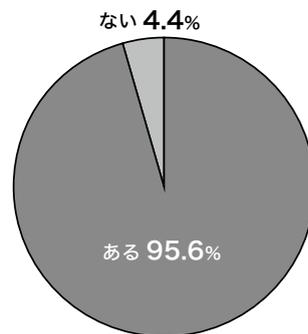


図1. 公園等の維持管理への地域住民の関わりの有無

公園等の維持管理における地域住民の関わりについて、回答のあった340自治体のうち、325自治体（95.6%）が「ある」と回答。この結果から、地域住民が公園育てに関わる仕組みがほとんどの自治体で導入されている現状が明らかになりました。公園等とは、都市公園や条例設置公園、児童遊園、市民緑地、およびこれらに類するものをさし、地域住民の関わりは、公園愛護会・アダプト・管理会・管理協定などのボランティアとしての関わり、および自治会町内会など地縁団体への業務委託を含みます。

#### (2) 関わり方の種類（ボランティア／業務委託）

上記の「関わりがある」と回答した325自治体に対し、その活動が有償無償を問わず有志で行う「ボランティア活動」か「業務委託契約」で仕事として発注されるものかを聞いたところ、264自治体（81.2%）でボランティア活動が行われており、169自治体（52.0%）で自治会等への業務委託が行われていることがわかりました。ボランティア活動と業務委託の両方がある自治体も108（33.2%）ありました。

Q：その活動は、ボランティアですか？業務委託契約を伴うものですか？

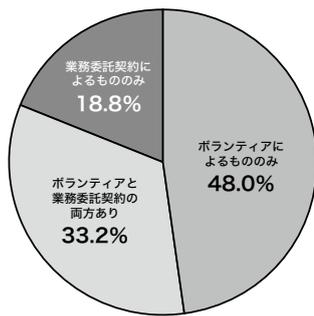


図2. 地域住民の関わり方の種類

### (3) 行政視点・住民視点での価値や効果

地域住民による公園育てには多様な価値があることから、公園管理者である行政からの視点と、公園利用者や地域住民からの視点にわけて質問を整理しました。

Q：地域住民による公園育てには、行政の視点からどのような価値や効果がありますか？

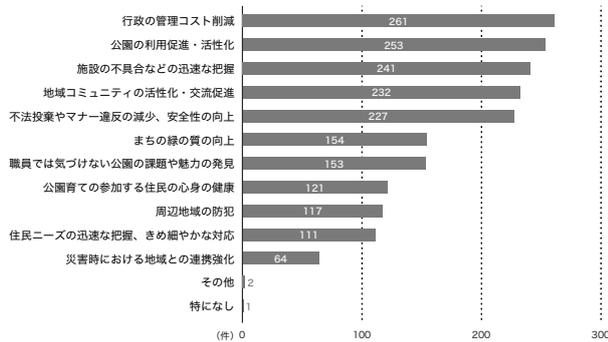


図3. 行政視点での公園育ての価値や効果

Q：地域住民による公園育てには、公園利用者や地域住民の視点からどのような価値や効果がありますか？

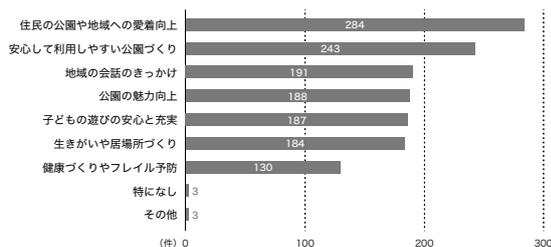


図4. 地域住民視点での公園育ての価値や効果

### ①行政視点での価値

住民の関わりが財政的なメリットだけでなく、公園の質や安全性を高める上でも不可欠であるという認識を裏付ける結果となりました。

### ②公園利用者・地域住民視点での価値

地域住民の公園への関わりは、単なる労働力提供ではなく、精神的・社会的な豊かさをもたらす活動として捉えられていることが確認され、地域の人々が公園の日常的な維持管理に関わることの多層的な価値が示されました。

全体を通して最も多かったのは「住民の公園や地域への愛着向上」で、愛着形成や地域コミュニティの活性化、財政メリットに公園の利用促進、公園の質や安全性の向上、精神的・社会的な豊かさなど、公園育ての多層的な価値が改めてよくわかる結果となりました。

### (4) 進める上での課題

Q：地域住民による公園育てを進める上で、現在感じている課題は何ですか？

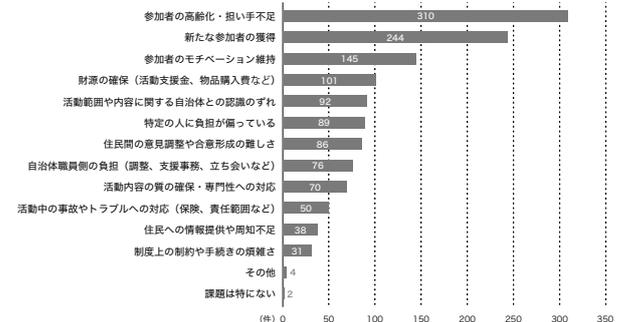


図5. 自治体担当者が感じる課題

圧倒的に第1位となったのは「参加者の高齢化・担い手不足」(95.7%)。ほとんどの地域で高齢化と担い手不足が最も深刻な課題になっていることが顕著です。現状の参加者が高齢化で減少する中、新たな担い手も現れず、残る人々のモチベーション維持も難しいという切実な状況が伝わってきます。これはボランティアと業務委託で大きな違いはありません。

### (5) 自治体担当者が注目する取り組み

全国の自治体担当者が、いいなと思うユニークな活動や先進的な取り組みについて、公園の美化活動とともに、さまざまなお楽しみ活動についての情報が寄せられました。たとえば、ラジオ体操、懇親お茶会、子

どもの運動教室、昆虫採集と観察会、昔あそび、かき氷や流しそうめん、キャンドルナイト、花壇作りや共同花植えなど花育てに関すること、農的活動、ビオトープの維持管理、山野草の紹介板設置、アニマル除草隊、ガーデンコンテスト、オリジナル愛護会だよりの作成と地域への配布、ガイドボランティア。さらに地域住民だけでなく、近隣の保育園や学校、福祉作業所、企業、商店街など多様な主体と連携した活動など。

公園の利活用やボランティア支援、ボランティアの活動事例、新たな仕組みづくりなど、他自治体の取り組みへの注目や関心もあり、担当としてうれしかった現場エピソードも多く寄せられました。

### 3. これまでに取材した参考事例より

地域住民による「公園育て」には、公園の魅力向上や地域コミュニティの活性化、健康やウェルビーイング向上など様々な可能性があります。公園でのゴミ拾いや除草をはじめ、コミュニティガーデンやハーブガーデンづくり、落ち葉の活用や堆肥づくり、芝生育て、無農薬でのバラ育て、生き物調査、釣り体験、ペンキ塗り、音楽フェス、稲作体験や菜園活動、樹林や竹林の保全など、私たちがこれまで取材した130以上の公園や自治体の取り組みから、ヒントになりそうな事例を一部ご紹介します。

#### (1) 公園育ては、多様な地域のつながりも育てる

高島中央公園（横浜市）では、都会のタワーマンションに住む子どもたちに地域活動や「ふるさと体験」の機会を提供し、毎月多くの親子連れが公園愛護活動に参加しています。また、大通り公園水の広場（横浜市）の活動には、中国出身の方や聴覚障がいのある人など多様な背景をもつメンバーが集い、日本語・中国語・手話が飛び交う楽しい時間となっています。誰でも気軽に参加できる公園での活動は、同じ地域で暮らす人々がつながり、会話をするきっかけとしても機能しています。

#### (2) 花育てや菜園活動で公園の魅力も楽しみも倍増

単なる維持管理に留まらず、公園の魅力向上と参加の楽しみを両立させる活動も多数見られます。七里ガ浜東二丁目公園（鎌倉市）は、利用が減っていた児童公園を花と芝生の公園に再生して、のべ2万人が育てる美しい庭として27年間地域に愛され続けています。初台第二児童遊園地（渋谷区）では、都会のス



写真1. 七里ガ浜東二丁目公園（鎌倉市）は花と芝生の公園として地域の人たちに愛され続けている

キマを有効活用。274㎡という小さな公園の周囲にぐるりと花やハーブを植えて、地域の人たちでガーデンワーク+青空コーヒータイムを楽しんでいます。新湊川公園（神戸市）では、川のほとりに住民が菜園を共同で開墾するところから作り、子どもも大人も楽しく関わることで、市内でも有数のトラブルリバーと呼ばれた公園の景色が一変、人々の交流の場としてみんなに愛されるようになりました。



写真2. 新湊川公園（神戸市）の「ウジャマー菜園」では農家さんのアドバイスも受けながら野菜作りができる（写真提供：SoooGoodながた）

#### (3) 学校や保育園、スポーツチームも地域と一緒に

子どもたちの学びと育ちの場としても「公園育て」は有効で、保育園や幼稚園・小学校・中学校・高校それぞれに様々な取り組みがあります。円蔵第一公園（茅ヶ崎市）では、近くの浜之郷小学校の2年生が自分たちで公園愛護会を結成し活動することで地域や公共を体験で学ぶ授業が行われていました。古小鳥公園（福岡市）では、隣接するいふくまち保育園が公園愛護会として、地域にひらかれた交流の拠点づくりをしています。デザイナーと一緒に公園のロゴマークやグッズなども作り、保育園の園児や職員、保護者、ご近所さんなど、多くの人たちが優しさを持ち寄り、公

園を魅力的な場所にしています。新檜尾公園（堺市）では、小学生のポートボールチームが町内会主体の公園愛護会活動に参加して、一緒に緑道の清掃をしながら地域の交流を深めています。子どもたちは、「公園育て」活動を通して、ただ消費するだけでなく、ともに育てる楽しみや守っていく喜びを体験で学んでいます。



写真3. 古小鳥公園（福岡市）のバザーでは子どもたちも大活躍！  
公園のロゴマークもかわいい（写真提供：古小鳥公園愛護会）

#### （4）まちづくり団体や企業も活躍

新たなプレイヤーとして、まちづくり団体や企業などが参入しやすい仕組みづくりも進んでいます。

練馬区では、みどりのまちづくりセンターと区が連携し、まちづくり団体に声をかけ市民緑地の管理団体が急増。まちなかの貴重な緑地である憩いの森の活用も拡大しています。また、ボランティア活動をやりたい個人が登録する「練馬みどりの人材バンク」ではボランティア保険の加入と、現場とのマッチングも受けられ、若い世代の参加も増えています。

企業がみどりのまちづくりに関わる取り組みとしては、福岡市の「一人一花運動」が有名です。企業が参加しやすい複数のメニューが運用され多くの地元企業が地域貢献として参加していますが、公園育てに関わるための「企業版公園愛護会」も今年度スタートしました。



写真4. 市役所・地域住民・公園愛護協力会・民間企業・大学などが協力する京都市のPark-UP事業：第1号公園の北鍵屋公園にて

同じく北九州市でも企業が公園の維持管理に関わる「北九州市公園応援団」があり、公園への看板設置や入札加点などのインセンティブが用意されています。

企業参加については、京都市の「Park-UP 事業」も注目です。地域・民間企業等・行政の三者が連携し、公園の魅力を高め、地域コミュニティの活性化を目指す当事業は、民間企業等のサポート団体が単に公園のハード整備を行うのではなく、地域住民の活動を支援するのがユニークです。

#### 4. 未来に向けて

今後どのように地域の公園を守り育てていくかについては、公園ボランティア・業務委託を問わず、既存の制度の見直しや関わり方のリデザインも含めて、多くの自治体が頭を悩ませています。各地でさまざまなアクションも始まっています。

まずは既存の団体が活動しやすく続けやすくするための取り組み拡大、関係人口を増やしこれまで関わってこなかった新しいプレイヤーの参画を目指す取り組み、若年層やファミリー層の参加促進、地元企業や学校など新たなパートナーとの協働、個人でも参加できるボランティアの入り口づくりなど。今活動している人にとっても、新しいプレイヤーにとっても大切なキーワードは「楽しさ」。公園育てに関わることで、喜びや楽しみが増えていく、そんな循環を作っていくことがヒントになりそうです。

著書「推しの公園を育てる！公園ボランティアで楽しむ地域の庭づくり」（学芸出版社）をきっかけに私たちのことを知っていただく機会も増え、お声がけいただけることも増えてきたのは、うれしい限りです。最新版も含めてこれまでの実態調査の結果レポートはすべてWEBサイトで公開しています。全国の自治体担当者から集まったコメントは読み応えも抜群です。

みんなの公園愛護会は、引き続き各地の取り組みを広く取材し、できるだけ多くの情報共有をしながら、推しの公園を育てる人を応援していきます。また、今後の新しい挑戦として、これからの公園育てに関するアイデアや実践を共有する場づくりも企画中。先が見えない時代、正解のないことだからこそ、未来に向けて一緒に知恵を絞り、企み、走っていくみなさんの仲間になれたらと考えています。みなさんのお近くの素敵な活動についても、ぜひ教えてください。

一般社団法人 みんなの公園愛護会  
<https://park-friends.org/>